

8 「総合的な学習の時間」の見直しについて

今年度の「総合的な学習の時間」の計画を立てるに当たり、昨年度の見直しが学校全体で十分に行われたと思うかどうか質問した。

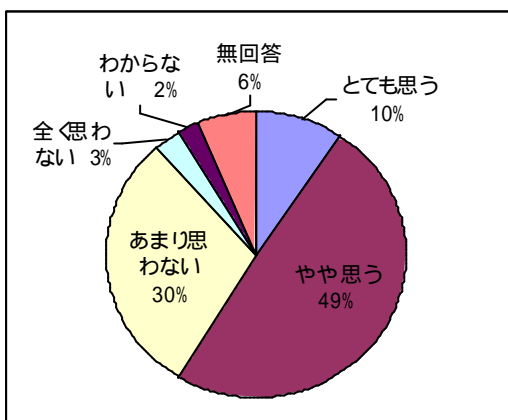


図10 「総合的な学習の時間」に見直しが十分に行われたと思うか（小学校）

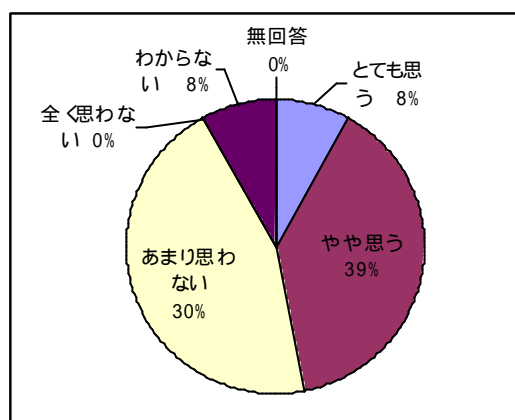


図11 「総合的な学習の時間」に見直しが十分に行われたと思うか（中学校）

(1) 結果

小学校では、「とても思う」「やや思う」を合わせた回答が59%で、中学校では、47%であった。また、「あまり思わない」「全く思わない」「わからない」と回答した割合を合わせると、小学校で35%、中学校で53%であった。小学校に比べ中学校では、見直しが十分でないと思う教師の割合が高いことが分かる。

さらに、見直しが十分に行われたとは「あまり思わない」「全く思わない」「わからない」と回答した教師に、その理由について質問した。

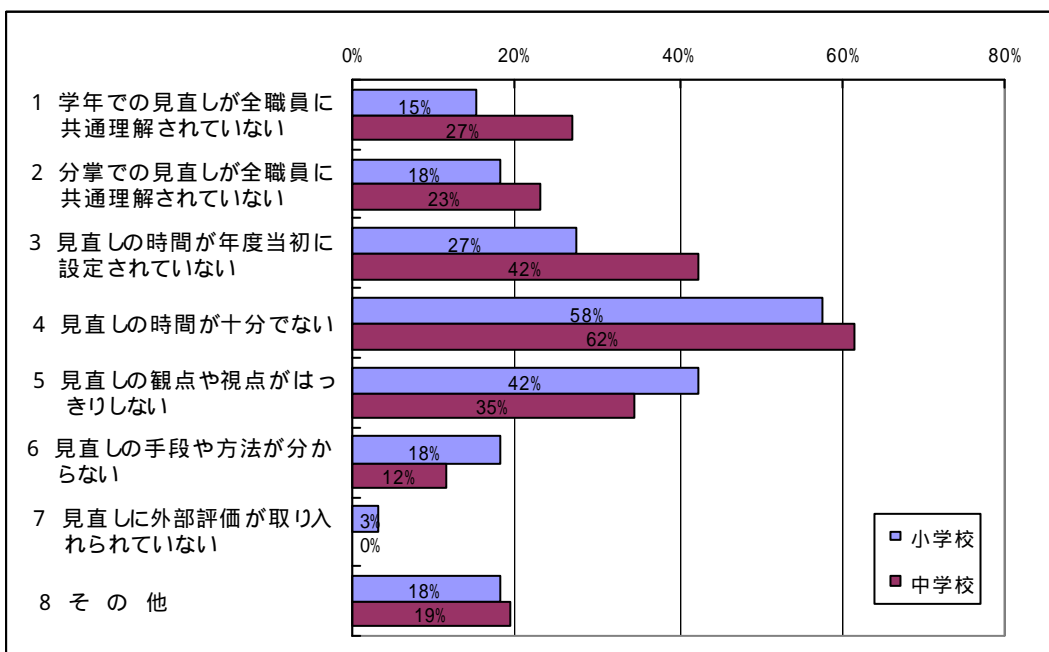


図12 「総合的な学習の時間」の見直しが十分でないと思う理由（複数回答）

小・中学校とも「見直しの時間が十分でない」と回答した割合が最も高い（小58%、

中62%)。次いで、「見直しの観点や視点がはっきりしない」(小42%、中35%)「見直しの時間が年度当初に設定されていない」(小27%、中42%)という回答が多く見られた。

(2) 考察

次年度のカリキュラムを計画するに当たり、年度末に見直しの時間を十分に確保することは、小・中学校ともなかなか難しい様子うかがえる。また、「見直しのための時間が年度当初から設定されていない」ことが、カリキュラムを見直し、改善するだけの時間を十分にとれない原因にもなっていると考えられる。さらに、カリキュラム評価を行うためには、観点や視点が明確になっていることが大切である。見直しの観点や視点が不明であれば、評価を行うことは難しいと言える。